

小規模多機能型居宅介護まこと

グループホームまこと

運営推進会議 議事録

令和6年6月18日（火）

14時～15時

小規模多機能型居宅介護まこと2階

司会 柴田砂奈江(小規模多機能型居宅介護まこと管理者)

鹿野英一(GHまこと管理者)

書記 工藤 未紗喜(GHまこと管理者)

参加者

- ・本間 悟様(グループホームまこと)
- ・工藤 陽介様(東部北地域包括支援センター)

1 挨拶

今回、5月15日開催予定だったんですが、通常、事前案内を請求書と一緒に送らせて頂いているんですが、入れ忘れたようで。急遽、1ヵ月ずれて開催させていただきます。

2 運営推進介護とは、

地域密着型サービス事業所に設置・開催が義務付けられ、利用者、利用者家族、地域住民の代表者、市町村職員または地域包括支援センター職員等で構成され、事業所ごとに自ら設置するものです。この会議において、事業所が行っているサービス内容等を報告し、地域に開かれたサービスをすることで、事業運営の透明性の確保やサービスの質の向上、地域との連携及び交流の確保等を努めることを目的としています。

3 事業運営報告

- ・ 3月・4月のサービス利用状況 (小規模・グループホーム)
- ・ まことでのサービス内容、行事等 (小規模・グループホーム)
- ・ 利用者ご家族様からの声
- ・ 3月・4月の事故報告について
- ・ 地域包括支援センターからの声
- ・ 質疑応答 (小規模多機能まことより)

4 質疑応答（意見交流）

- ・グループホームまことより

5 その他

- ・ 小規模多機能、グループホームより
- ・ 町内会活動、地域交流への参加について
- ・ 今後の活動等

(2) 事業運営報告

■ 3～4月の介護度別サービス利用状況

(3月31日・4月30日付)

要介護	3月 小規模	4月 小規模	3月 グループホーム	4月 グループホーム
要支援1	1名	1名		
要支援2	1名	1名	0名	0名
要介護1	11名	10名	2名	1名
要介護2	10名	9名	6名	6名
要介護3	1名	3名	6名	6名
要介護4	2名	2名	4名	4名
要介護5	0名	0名	0名	0名
計	26名	26名	18名	17名

柴田「小規模まことは定員29名中、3月4月共に26名でサービスを提供しています。要介護者の内訳は要介護度の更新を行っている方が数名います。要介護4の方が2名、5の方は0です。」

鹿野「グループホームまことは3月は満床で18名でした。要介護度については記載通りです。4月になりまして、1名は別の施設に移りまして、17名となっています。5月に入りまして18名となったんですけど、先月末に別の方が別施設に移られまして17名となっています。」

柴田「今は待機の方は？」

鹿野「いるんですけど、募集はおります。」

■ 小規模まことでのサービス内容・行事等

- ・ 3月 1日(金) 開設記念日
- ・ 3月 8日(金) 昼食作り～五目御飯・鯖の塩焼き
キュウリの叩き～
- ・ 3月 10日(日) 昼食作り～煮込みうどん・フルーツポンチ～
おやつ作り～干し芋蒸しパン～
- ・ 3月 14日(木) 避難訓練
- ・ 3月 18日(月) 春彼岸～牡丹餅づくり～
- ・ 4月 4日(木) 昼食作り～お好み焼き・芋の塩煮と塩辛
野菜スープ～
- ・ 4月 7日(日) 訪問美容
- ・ 4月 8日(月) 工作レク～桜のガーランド～
- ・ 4月 18日(木) おやつ作り～いちご大福～
- ・ 4月 26日(金) 昼食作り～チャーハン・手作り餃子・
中華スープ～

柴田「3月に関しましては、開設記念日がありまして、利用者と職員の出し物と1日かけて行事を行っております。その他、昼食作りという事で、月間4回行っております。内容については利用者さんたちのリクエストを聞いて皆で手分けして作るという形で行っております。その他に、3月14日に消防の立会いのもと、避難訓練を行っております。その他、工作レク、おやつレクなど、まだ寒い時期でしたので、室内での活動を主に行っていました。」

グループホームまことでのサービス内容・行事など

- ・ 3月 1日(金) ひな祭り写真撮影 2階
- ・ 3月 2日(土) リビング装飾作り
- ・ 3月 3日(日) ひな祭り 写真撮影 1階
- ・ 3月 10日(日) 蒸しパン作り
- ・ 3月 13日(水) ホットケーキ作り
- ・ 3月 14日(木) 避難訓練
- ・ 3月 19日(火) 開設記念日 スライドショー
- ・ 3月 20日(水) おはぎ作り
- ・ 3月 28日(木) 誕生会 ケーキ作り
- ・ 4月 4日(木) プリン作り
- ・ 4月 8日(月) 春の大運動会(棒渡しリレー、玉入れ、ストラックアウト)
- ・ 4月 15日(月) 春巻き作り
- ・ 4月 17日(水) 誕生会

・4月 20日(土) 訪問美容

鹿野「ありがとうございます。グループホームまことです。3月はひな祭りをやりまして、1階2階でいつもひな人形の写真撮影を行っております。あとは、季節毎にリビングの飾りを変えています。その装飾作りをしています。あとはおやつ作り、3月19日に開設記念日で、13周年ですかね。ちょっとしたレクをし、あとはご馳走を提供し、午後から行事とかの写真のスライドショーで行っています。あとは、おやつ作り。お彼岸がありましたのでおはぎ作りをしました。月の誕生日会です。4月に入りまして、春の大運動会、誕生会、4月20日に訪問美容がありました。3月14日、同じく避難訓練がありました。消防の立会いで行っています。以上です。」

■ 利用者ご家族からの声

小規模

* 急遽引越すことになり、急ぎでGHを探してほしいと無茶なお願いにも関わらず、対応して下さり、感謝しています。何とか間に合い、安心しました。今までお世話になりました。

(T様 ご家族より)

柴田「ご家族様の都合で急遽4月2日にこの自宅を引き払う事になりましたということで、3月17日にお話を頂いたんですね。2週間程度しかなくて、同一法人には空きがなく、尚且つ、グループホームにも空きがなく、タイミングが大切なんですね。今回限っては、押上げ1位という形で利用待機数名いらっしゃる中で、緊急性ということで別のグループホームさんに急遽無理を言ってお引き受け頂きました。なんと4月2日間に合って転居となっております。」

* 家でも暴れることが多くなってきているので、大変です。皆さんにもご迷惑をかけているんじゃないかと思っています。

(Y様 ご家族より)

柴田「この方は、アルツハイマー型認知症、要介護3の方。内臓疾患が全くなくて、本当に純粋の認知症の方で、年齢的にも72歳とまだお若くって、進行度合いが早いという事があります。ADLも普通に歩行も独歩ですし、今ご自宅で奥様と2人で暮らされて員ですけど、どんどん言語理解能力が落ちていって、気持ちの抑制が出来なく、夜中の飛び出しが多くなってきていて、警察の保護も回数が増えてきているんですね。ご家族様と話をし、ご自宅で看れる段階でじゃないではないかと奥様、メインになる方KPに話をさせて頂いたんですけど、奥様が覚悟が足りないというか、ご理解が出来ていないというか『まだなんとかかなりそうな気がする』と言いながら、

次の通所の送ってくれた時には顔にアザが出来てたりとか、奥様がアザが出来ていて。お子様たち踏まえてご意見を伺いましたら『母さん、もう少し頑張れんじやないの』とご意見があつて、お子さんたちの声を聞くとどうしても奥さんが頑張ってしまう。何日かショートステイということで利用して頂いたり、通所時間帯を長くして、ご家族送迎にはなるんですけど、朝早めに来て頂いて、夜は晩御飯を食べてから帰る。できるだけまことにいる時間を長くしていこうというところでサービス提供をかけています。主治医である先生に奥様の方からご相談していたようなんですけど、特に薬が変わるわけでも、次の受診が短くなるわけでもなくて。奥様だけの話だけだと難しいのかなという事ところで、明日ですね、一緒に主治医の先生に会って、ご相談をさせて頂こうと思っています。その間も肋骨にヒビが入っており、現実的には受傷されております。この方、入浴拒否がすごくて、浴室を嫌がるんです。浴室に入ると『殺される』と発言が多くて、まだ年齢的に若いのと男性なので力がありまして。今は男性職員が一人しかいなくて、女性職員が入るとかじられたり、殴られたり、ここ最近も多くなり、私たちの方もどうしたものかなと。主治医の先生には相談させて頂いて、必要であればご自宅の生活を考えるのであれば、薬調整も踏まえて相談していこうと考えております。ですが、熱が出てしまって。受伸びる可能性があります。今後、このような形で動いていこうと思っている話でした。」

鹿野「ありがとうございます。何か急ぎでいってしまったのですが、質問とかありますか？」

本間様「最後の話が気になりますけど。結局様子がわからないですよ。」

柴田「そうなんですよ。奥様も困つてるとおっしゃっているんですけど、いろんな選択肢を『まだもうちょっと頑張ってみます』っているところで最終的の納得頂ける選択肢を提示できていない。なかなか前に進展しないけれども、その間に怪我が増えていく。」

工藤様「それはお母さんから本人に叩かれているみたいな感じで言っているんですよ。それを先生も知っている…？」

柴田「主治医の先生にも伝えたんです。この一回前の受診の時に薬を変えてみますと言われてたんですけど、この方、拒薬がある方で、飲み薬を変更かけられても、拒薬している以上薬飲んでないのと、変更になってないのとまったく症状は変わっていないんですよ。それをなかなか奥さんが先生の方に具体的にお伝え出来ないところに直面しているんです。」

工藤様「家での服薬状況は家族管理なので飲めているのかも定かではない？」

柴田「お母さんはしっかりとされている方で、聞く限りでは大体2/1以下しか飲めない。2回に1回も飲んでない。」

工藤様「そうすると薬の内容よりもまずは今の薬をより飲む方法というところが大事になっ

てくるでしょうけど、成功するときと失敗するときの何が違うのか。声掛けのタイ

ミングなのか、その時の食べる流れから上手くいったりとか。お母さんがどこまで支援が出来るのか。厳しいのかな。」

柴田「そうですね。ご夫婦なので人目がない空間での出来事なので。お母様も声を上げてと思いますね。昔は温厚のお父様だったお話でしたけど、何を言っているかわからない方が目の前で怒鳴っていたら、やっぱり興奮してくるでしょうし、奥様も切実だから何とか飲んでもらいたいというところで、なかなか上手くいっていない。」

工藤様「こっちに來られている時は上手く飲めているんですかね？」

柴田「どうなのでしょう。追加抑肝散で漢方がどうしても。ところがねろうが、そのまま入れても口の中でバラバラになって吐き出してしまう。その具体的な状況を主治医の先生にお伝えできていなかったのが課題なので。主治医の先生は飲み薬で調整していきましょうと言われていたんですけど、明日相談させて頂いて、お母様がヒビ入っているので、緊急的に精神科の方に入院をかけてもらおうかと。」

工藤様「脳神経外科での主治医なんですかね？」

柴田様「協立病院の内科なんですかね。」

工藤様「内科なんですか？」

柴田「定期的に診てもらおうかと。大きな内科的な疾患はないんですね。」

工藤様「やっぱり専門医の展開が必要になっている段階ですよ、話を聞く限りは。」

柴田「そうですね。けど、主治医の先生はまだ何とかなると言っているんで。先生の機嫌の損ねないように言うには…？」

工藤様「協立さんは割と聞いてくれる印象が。渋谷先生でしたら在宅にも熱心に関わってくれているんですが、その先生ではないんですね。」

柴田「じゃないんですね。」

工藤様「先生を変えてくれとはいえないですね。」

柴田「言えないです。お付き合いを考えると。一応、内科の先生なので専門的な医療機関でご相談させていただきたいことを相談させてもらって。」

工藤様「だったら、相談室の方に相談すると割とそこから相談聞いてくれて、先生の方にもうまく伝えてくれることもあるので。私はよく相談するのは相談室の方にこういう事情でお伝えしたら。」

柴田「診察前ですか？」

工藤様「診察前ですね。前もって伝えるようにしています。したら、間に入ってくれるので。相談のしやすさはぐっと増すかな。お風呂がなかなか入られるわけでもない。」

柴田「ご本人も嫌がる、暴れて、この手すりを1本壊されていて、すごい力なんですね。その時はアザになりましたね。」

工藤様「ご家族様もその状態を知っているのに、頑張れそうと言うのは。」

柴田「かわいそう思われるようで、お父さんも苦しんでいるんだという所をおしてくるんですけど。なかなか奥様の方に行かない。前のお父さんはこんな人じゃなかった、もっと穏やかだったという所に引っ張られちゃって。なかなか現実を受け止めきれないですね。」

鹿野「上限がわからないというか、ご家族のどこまでいったら限界なのかわからないのか。」

工藤様「警察の保護というところでも、状況的に帰って来られなくなるのも考えられる。

判断力低下とか現時点でどの程度なのか判断できないんですけど。」

柴田「家の中のお父さんがなくなって、お母さんも探しながら交番に連絡をし、もうおなじみさんなので警察もすぐ動いてくれるんです。」

工藤様「どれくらいの頻度で起きているんですかね？」

柴田「夜間、家の中をバタバタ動くのはほぼ毎日、家の外へ出てしまうのは月2回くらい。」

工藤様「寝室は一緒なんですか？」

柴田「一緒だと思います。」

工藤様「ここに来られている時は、トイレの場所は迷う事がありますか？」

柴田「迷いますね。玄関に常に行きますね。出ようとして、鍵をガチャガチャ、避難口もガチャガチャと。でも出入りするときに『迎えに来てくれたんだね』って言えばうんうんと頷き、職員と一緒に中に戻るんですけど、すぐに戻る。靴を出して履いて、戸をどんとどんと。」

工藤様「やっぱり夜間のずっと見ているリスクを考えると。」

柴田「そうですね。家を出て振り返るとそこが家だという認識がなくなるので、だから、隣の人が保護してくれることもあれば。」

工藤様「夜間だったら誰もいないですもんね。」

柴田「そうなんですよね。」

工藤様「いつか見つからないということが起きそうですね。」

柴田「その前には思っています。」

工藤様「お医者さんと相談して、悪循環にはならないですけど。夜間のお薬で寝ていただくとか。」

柴田「ご家族によっては朝方に薬が残ってしまう転倒させてほしくないからと言われるんですけど、介護する側から言わせて頂くとその方だけ見ているわけではないので。どっかはリスクを覚悟して頂かないと。」

工藤様「一番のリスクは行方不明、そのまま亡くなってしまうのが大きなリスクですね。」

柴田「そうなる前には。」

工藤様「お医者さんとお話をした上で、やっぱり家族、お母さん以外入れてリスクに関しての話し合いをして、方向性を合わせる必要があるような。」

柴田「もう施設入りたいと仰っていたときもありまして、この現状のまま受け入れてくれる施設なんて存在しないので。どちらにしても薬調整しないと。」

柴田「グループホームまことに相談しに行くかもしれないので。」

工藤様「一部屋空いているので、良いタイミングかもしれないですね。」

鹿野「現状が8名1室空いているんですけど、1名男性の方が大変な方がいらっしゃいます。」

工藤様「他の介助に入られない事もありますね。夜間寝ないので。」

鹿野「問い合わせも男性が多いですね。」

柴田「難しいもんね。」

工藤様「グループホームは圧倒的に女性が多いですもんね。」

鹿野「職員も2階女性職員ばかりで、高齢の職員も多いので。」

工藤様「やっぱり欠かせないのは先生の連携ですね。」

鹿野「なかなか先生に伝え方もあると思うんですけど、なかなか着地点がわからないという。」

柴田「問題をお伝えしても『結局、何をしてほしいの』と返されてしまう。」

鹿野「夜落ち着いてほしいことをお伝えしたのですが。」

工藤様「人数は限られているし、散々言われているのは日中動かしてと一般的に言われてますけど、なかなか現場としてはそれだけではないんだよということがありますからね。永遠のテーマというか。」

柴田「分かり合えないなど。」

工藤様「度々勉強会でも言うてくるのはその人の背景を知ろうと。その背景からこういうことに興味を引いて、その事に集中出来ればと言いますけど。出来る事がそういうことしか。」

鹿野「男性利用者の問い合わせが来た時は引いてしまう。」

柴田「来る状況が全て正しいとは限らないしね。」

鹿野「女性も含めてですけど。」

工藤様「お試し2、3泊しても良いとは思いますが、なかなかそうは出来ませんもんね。」

柴田「皆、取り繕いが上手いので。入った後、続々わかってくることが多い。」

工藤様「入りたての時期は皆さん落ち着かないですけど、一か月後がどうなるか。ある程度見ないと。けど、家からだとなりづらい。時々、ショートステイを使ってもらって、見えてくることもありますよね。小規模のお泊りの使っているところは、情報としてはある程度見やすいと思うので。」

柴田「小規模事業って夜勤者1人で見るんですけど、結構な頻度で起きてくるんですね。ずっと歩き回って、やっぱり他の人の部屋に入ってしまう、2階のラウンドやケアに入っていると、1階で好き放題。その方がお泊りされる時は、もう一人必要ですね。必要なケアなんですけど、会社の契約のこともあって、この職員は無償で結局夜来て、その人を見なければならぬ。でも、こういう事情はご家族様へお話をしていないので。」

工藤様「まあ、お伝えしても良いのではないのでしょうか。集まれる機会があれば、妻と妻以外のご家族様含めて、話し合いをしても良い段階にきているのではないかなと。」

柴田「2、3ヵ月ですよ。今年の2月か3月かな。」

工藤様「2、3カ月前から来られた時は症状でいたんですね。」

柴田「お母さんのことをそこまで殴っていなかったような。それまで支援だったので。包括さんのご紹介で、変更申請をかけたら一気に要介護3まで上がりました。」

工藤様「ありがとうございます。」

鹿野「本間さん、何かありますか？」

本間様「今は何も考えられない。そういう人がいるだろうなど。奥さんの事はわからない？」

柴田「奥さんだって認識はある。だけど、上手く言葉がなかなか出づらくなっているの。」

本間様「難しいですね。」

工藤様「専門の科にかかる事で道が開ける場合もあるので。」

グループホーム

* 平素より母が大変お世話になっております。いつも電話越しに母の明るく元気そうな声を聞く度に、スタッフの皆様の手厚い介護のおかげで、平和に落ち着いて日々をすごさせていただいている姿が目に見え感謝の気持ちでいっぱいになりながら、早いもので、お世話になりまして1年が過ぎようとしております。母の思い、時に入所させてしまったという後悔、寂しさで何度も電話をしたり、気持ちのコントロールが大変な時期もあり、限界を感じながら、解決の糸口が見つからず途方に暮れる時もありました。母はまだ若いこともあり、認知症の診断は出ていましたが、病院受診やケアマネに相談するという考えが及ばず、反省もありました。現在住んでいる地域に認知症家族支援の会があり、代表の先生に何度も相談すると、GHまことで過ごす母とスタッフの皆様の取り組みをSNSで拝見されており、参考にさせていただきますと仰っていました。母は電話でいつも、「ここは本当にいい所だよ。困っている事はなくて、スタッフの方たちもいい方ばかりだね。若い時は一生懸命働いて、年をとったらこういう施設に入れるよう頑張りなさい」とアドバイスをしてくれます。このような言葉を聞けて、どれだけ救われる気持ちになるか、心より感謝の気持ちをお伝えしたく長文になりましたが筆を執らせて頂きました。

(S様 ご家族より)

鹿野「ありがたい言葉を頂いたんですけど、ご本人は毎日の行動の中で、ひどくはないんですけど、入床時間になると不穏ではないんですけど、本人寒がりというか暖房について、昨日もあったんですけど『暖房入れてくれないの?』と言われてまして、暑くても寒いと言われるんです。一時を越えると訴えはなくなるんですけど。ご家族からしたら色々大変だった時期もあったらしく、妹さんも地方だったので、すごく心配されていて。先生が慶応大の名誉教授方らしく、サークルなどで交流していらっしゃる方らしく、こちらが発信しているホームページなどを見ていらっしゃるみたいで、ブログとか見て決めたと言われる方もいて、とてもありがたいという事でした。」

工藤様「さっきの話が凄すぎて。SNSなどを今後も続けていただいて」

■ 3月・4月の事故報告について

	小規模 3月	小規模 4月	G H 3月	G H 4月
アクシデント	0件	0件	1件	0件
インシデント	3件	2件	7件	4件
ヒヤリハット	1件	0件	2件	1件

アクシデント

転倒顔面打撲 3月28日 市役所介護高齢課報告済

柴田「小規模は3月インシデント3件、ヒヤリハット1件、4月はインシデント2件報告が上がっています。4月のインシデントは食事についてで、鶏そぼろの味がおかしいということで、腐っているのではなく、長期冷凍している状態で、味見の段階で気づかなくて、普通に食事開始をして、最初に一口では気づけなくて、3、4と食べ続けている内に味がおかしいねということで、その場で中止しています。あとは、3、4月続いたんですけど、ご家族に返却する目薬の取違いであったり、エビアレルギー方にエビを乗せて提供してしまった。食べる前に気づいて、代替食品を提供したということで、食べるまでは至ってないんですけど、チェック体制があまくなっているのではないかとということで、3、4月報告させていただきました。以上です。」

鹿野「ありがとうございます。グループホームです。3月はアクシデントが1件、インシデントが7件、ヒヤリハット2件が出ています。アクシデントなんですけど車椅子の方でお手洗いに行って、失禁があったので、その場でズボンを取り換え中に普段、声掛けにも立ち上がらない方で、難しいんですけど、着替えて職員が振り向いている間に、腰を上げたなんかして、トイレからずり落ちたというか横の手すりに顔をぶつけて、床に座り込んだという感じです。顔が思いっきり打ったらしく、事故があった時は変色はひどくなかったんですけど、それから2、3時間経って、私が夜勤だったので見たら、変色し始めまして、ご家族に電話をし、受診をして頂きました。内容は骨折はなく、打撲で済んだんですけど。見ていない間に立ち上がり、座り込んでしまう事がありました。」

柴田「見ていないから立ち上がる。」

鹿野「なかなか声掛けても、トイレ内でも立ち上がれない方で。特に骨折もなく、入院とかされなかったのも、そういう事があったので、周知して注意するようにしています。その他は、転倒や膝つきで、トイレでありました。歩行介助の方で、椅子を取りに行く為に洗面台に掴まってもらったんですけど、その時に倒れそうになっと所を支えて、大事に至らなかったという事がありました。転倒とか座り込みが多い月でした。4月はインシデント4件、ヒヤリハット1件

です。同じ方のトイレ内での座り込みと、他の方の転倒ですね。椅子からのずり落ちとベッドからの落下。この方いつも左側臥位で通路側を向いて寝ているんですけど、同じ方ばかり向いていて、股ズレみたくなくて、逆を向いて寝てもらったんですけど、自分で報告が分からなくなってしまって、頭と足を逆にして、起き上がろうとしたのか、落下しました。ベッドは低くしてたので、先に布団を落としたらしく、その上に落下したので奇跡的にアザもなく、大事には至らなかったんですけど。普段、同じ方向ばかり寝ている方なので、注意して、周知しています。アクシデントは3月28日に市役所の介護高齢課に報告しています。なにかありますか？」

工藤様「どれも良くあることで、その後の周知なども出来ているようなので。」

■ 地域包括支援センター様からの声

工藤様「まったく初めての参加なので、何もわかっていないんですけど。とりあえずひょうたん通信を持ってきました。毎度貰っていると思いますが、見て頂ければ。新体制で4月から人事の移動もありまして、私も居たんですけど、ケアプランナーという、要支援のケアプランの作成に自宅へ訪問するという仕事を3年くらいしてしまっていて、生活支援コーディネーターを曾呂智がしていたんですけど、星が浦ケアプランセンターの方に異動となりまして、私がここに入って地域の場に今後も参加することとなるので、よろしくお願ひします。プランナーの方には鎌田の方が私の後任ということで、よろしくお願ひします。」

4 質疑応答 または 意見交流

・グループホームまことより

鹿野「受診についてまこと通信にも書かせて頂いたんですけど、入所の時に受診の対応はご家族でお願いをして、釧路にいらっしゃらない方は、ご親戚とか対応をされているんですけど、ご親戚の都合というか高齢化とか、体調が悪いので対応が難しくなっていて、その辺の説明というか当初の契約時の確認というか、そこが難しいんですよね。緊急時とか対応が難しく、こちらもずっと出す事が出来ないで、そういう場合の話し合いが必要かなって。契約時ことももうちょっと詰めて話をした方が、入所したら忘れてしまうので、という感じですね。地方にいらっしゃっても、東京からでも来てくれる方も居るんですけど、ご家族によっても対応が難しい方もいるので、トラブルとかなる前に。」

工藤様「これも終わる事もない課題ですね。包括でもよくあるので、付き添う事もありますね。」

柴田「予約制は予約制なので。緊急時は使えないですね。」

鹿野「夜とか土日はやっていないので。」

工藤様「結局は施設長が出る事が多いですよ。」

柴田「うちも同じような事が先月ありまして、入院はしているんですけど。入院が決ま

るまで間、高熱が出て、病院側にも相談をし、生活保護の方なので福祉事務所へ相談し、ご主人はまったく出て来てくれなくて、一体どうしたら良いのかわからなくて。社会福祉の方には小規模なんだから1から10までやるのが当たり前でしょと言われたんですけど、確実に人員は出せなくて。一体どうしたらいいのかなということで、ご家族様の信頼関係も問題あるかなということで、今回は退去という形で。ご家族様が納得できないサービス提供ならば納得できるサービス事業所に行くべきだと思いますし、まことできる範囲でしか動けないですし、それ以上望まれるのであれば、他の事業所へという事を相談しました。」

鹿野「家族は了承というか。」

柴田「家族は受け入れ先があればいい。私たちが率先して施設を見つけて、こういう施設がありますよって。家族は家に帰って来られたら、自分の負担が増えるのが困るから。次の入るところを見つければ、全然。」

工藤様「後は結局お金の問題になると思いますけど、お金があれば引き受けサービスを行っている会社にお問い合わせは出来ますけど、ただ額としてはかなりのものになるので。そういう制度も説明した上で、家族様に誰か来て頂けませんかとするのか、そういう提案もしてもいいのかもしれないんですけど。現実、そういうサービスを使う方はほぼいらっしゃらないと思いますけど。」

鹿野「ありがとうございます。」

柴田「今、小規模もグループも利用者像が大変なんです。だからこう発言が続いてしまうんですよ。」

鹿野「受診にどうしても職員が。ご家族が状態が上手く話せなくて、工藤とかが一緒についていっているのです。どうしてもご高齢で説明が出来ない事がありました。」

工藤様「あとは往診に切り替える相談とかをして、連携を取りやすい体制を作って行く方が良いと思いますけど。緊急となると難しいですね。」

柴田「往診の先生も結局何かあれば家族で対応しなければならない。」

工藤様「在宅であれば、訪問看護とかそういうサービスがあるんですけど。小規模も訪問看護は使えるんですけど？」

柴田「看多機だったら。」

工藤様「もうしかしたら頻度が高い方は小規模よりは看護小規模多機能の方が。包括のテーマとして身寄りのない方とか、警察から電話が来て対応するとか。」

柴田「大変ですね。」

鹿野「本間さんはどうですか？」

本間様「大変なんだなって」

5 その他

- ・今後の活動について

(小規模多機能)

5月

- ・お花見ドライブ
- ・端午の節句の兜工作
- ・昼食作り(定例 調理レクリエーション×2)

6月

- ・運動会
- ・Moo 散策と買い物レク
- ・昼食作り(定例 調理レクリエーション×3)
- ・自主避難訓練(26日)

柴田「5月についてはもう終了しております。お花見ドライブ、端午の節句の兜工作、定例の昼食作りですね。6月もすでに運動会、Moo 散策と買い物レクは今日、明日で皆さんで直接現金を持って買い物をしてもらって、一応事前にご家族様へ了承と領収書が出ないことをご理解頂けた所に関しては買い物レクに入っています。その他に自主避難訓練、現在、3ヵ月に1階、年4回実施しています。今月も26日に予定しております。」

5月

- ・お花見ドライブ
- ・ガーデニング
- ・調理レク

6月

- ・ドライブ
- ・ボランティア 舞踊
- ・まこと喫茶

鹿野「グループホームです。5月はお花見ドライブ、別保公園へ行きました。行った日が桜祭りの時で、車が渋滞で並んでたので、諦めて。」

柴田「事前に調べなかったの？」

鹿野「あんなに混むとは思ってなくて。車走らせながら花見になりました。ガーデニングもしています。いつも工業高校から頂いたプランターに花を植えているんですけど、今年も10個ほど植えています。調理レクは恒例行事となっています。6月、ドライブと6月初旬にボランティアの方が来て、歌謡舞踊を披露して頂きました。これも終了しましたが、まこと喫茶。おやつを自分たちで作って、クリームソーダとか、ココアとか紅茶とか、コーヒーとか皆で喫茶店を味わう行事をしてお

ります。以上です。なにかありますか？」

柴田「重たい状態で終わりますね。」

鹿野「本間さん、何かありますか？」

本間様「ありません。」

工藤様「これが初めてなので、これが標準なのかなって。」

柴田「前向きは話もあれば良かったですね。」

次回開催予定日 令和6年7月17日（水） 14時 小規模まこと 2階リビングにて開催